

会議録

会議の名称	第2回加東市商工業振興協議会
開催日時	令和4年10月20日(木) 14時00分から16時00まで
開催場所	加東市社公民館2階視聴覚教室
出席及び欠席委員の氏名 (出席委員10人) 長沼恒雄、吉田伊佐見、長谷川妙子、土肥富夫、赤瀬伸、山本理之、 奥村眞司、長田徹 (欠席委員) 戸田美幸、林万美子	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 産業振興部商工観光課 課長 菅野勇一、副課長 松末久美、主事 新地翔太 加東市商工会経営支援課 課長 柳 隆之	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1. 協議事項等 (1) 報告事項 ①令和3年度事業実績の検証について ②「加東市×大学 連携プロジェクト」研究発表報告 (2) 協議事項 ①加東市商工業振興協議会からの市等への提案事項について ②令和4年度業界研究セミナーについて (3) その他 ①令和4年度加東市商工業振興施策の取組状況について 2. 会議資料 第2回加東市商工業振興協議会資料 3. 会議の概要、経過 別紙のとおり	
令和4年12月19日 会長 <u>長沼恒雄</u> 副会長 <u>吉田伊佐見</u>	

(別紙) 令和4年度第2回加東市商工業振興協議会の経過

1. 開会

2. 報告事項

(1) 令和3年度事業実績の検証について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、商工業振興施策の令和3年度事業実績の検証について説明を行う。>
委員	企業立地について。 東条の南山インターパークは完売し、加東市の工業団地に工場立地用地がない。他の北播磨の工業団地も全部埋まってきている。企業立地に対する支援はあるが、場所がない。若い子が働くことが出来る工場の誘致を検討していただきたいが、現状はどうなのか。
委員	公表されているのは、市内の3か所程度に候補地を絞って、新たな産業団地を創設する動きがある。それに伴い、現在兵庫県各部署と調整中です。市長の所信表明にもあったように、できるだけ早い段階で産業団地を作り上げたいという思いで市の担当課で動いている。物流倉庫とかではなく、雇用が見込める企業に来ていただきたいという思いを持って動いている。現状でお知らせできる分を報告させていただく。
委員	進んでいるようで良かった。早急に実現できるようお願いしたい。
議長	産業団地と工業団地の違いは何か。
委員	「工業」は「産業」の一部。産業には生産しない仕事も含まれ、もっとひろい範囲である。
議長	現在加東市にある工業団地は大企業向けのサイズなので、中小企業向けにコンパクトなサイズでも分譲可能にしてほしい。加西市インター産業団地は可能であった。会社規模の拡張のための工業団地進出というものもあるが、ものづくりの工場で既存の工場を稼働させながら、建て替えもやりたいという会社があると思う。雇用の問題もあり、市内に建てたいという思いはあるが、加東市には代替地がなかったのか、加西市の土地を購入した。同じ悩みを抱える企業が市内にあるのかどうか、商工会で聞取調査を行って欲しい。
委員	顧客からも南山インターパークの面積は大きすぎると聞いている。南山インターパークの規模で工場を稼働させるとなると、年商100億円規模のレベルの企業でないと難しい。市内には年商10億円規模の企業が多いので、小さい規模の分譲のほうがニーズがあると思う。
議長	中小企業が集まる団地を考えてもらえたらと思う。 小さい分譲のほうが工場の建替え用としてもニーズがあると思う。
委員	いただいた意見は担当課に周知させていただきたい。
委員	新しい工業団地が出来て企業を誘致したくても、求人募集をしても人が来ないから企業が来ないと聞いたことがある。雇用面の状況を聞きたい。
委員	現在整備中の小野の工業団地も規模がかなり大きいですが、ハローワークでは一挙に何十人という求人募集が来ても受け皿が小さいので対応は難しい。区画が小さく中小企業向けの工業団地で、会社の採用規模も1人とか2人だと対処しやすい。

(2)「加東市×大学 連携プロジェクト」研究発表報告

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	＜資料に基づき、「加東市×大学 連携プロジェクト」研究発表報告について説明を行う。＞
委員	＜資料に基づき、最終プレゼン時の様子について説明を行う。＞ 学生の発表をもとにして、観光協会や商工会では加東市を題材としたお金を落としてもらえる仕組みを考えてほしい。 今回の提案の中にはゴルフ場を活かしたものがなかった。インバウンド需要や男女問わずできるスポーツなので、ゴルフを切り口とした提案が欲しかった。
議長	2 大学 13 チームが提案をくれた。観光客を呼び込む方法が何かないかということで若い人から意見を募った。当会としても新しい事業への取組が出来た。あとは、観光協会や商工会で少しでも提案いただいた内容が形にできたらと思う。

3. 協議事項

(1) 加東市商工業振興協議会から市等への提案事項について

発言者	会議の経過/発言内容
議長	＜資料に基づき、提案事項について説明を行う。＞ 北播磨で初めて加東市で12月にロボットコンテストが行われる。加東市でこのようなコンピューターのプログラミングの取組が行われていることを認識していただきたい。 現在小中学校では「情報」という科目が必修で、プログラミングまで行っている。再来年くらいには国公立大学の入試にも「情報」が導入されると聞いている。大学からは実際に企業のデータを活用した研究がしたいということでデータ提供の依頼も来ている。文部科学省も、情報の分野について推進を強化しているため、これからは子どもたちの学びの主になるし、DXに向けて進んでいる。大人もDXやIoT関連で起業することも考えられる。デジタルは、全ての仕事・産業に関係があり、教育もその方向に進んでいる。これから廃校になる学校を利用して、子どもから大人までが集い、学べる「加東市デジタルキャンパス」のようなものを考えてはどうかと思う。箱ものも必要だが、人材も必要。設計は3Dプリンタで行うのが当たり前になってきた。購入するのは無理でも三次元プリンタを試しに試してみたいとか、作ったロボットを動かす練習をする場所が欲しいとか、箱ものを作って、人材も育てる場にできるのではないかな。 スタートアップの起業家たちが集まる場にも使用できれば、相乗効果で異業種交流しながらアイデアも生まれるのではないかな。 当会の使命は、市政への政策提言である。自分の提案をたたき台にして、みなさんの立場で意見を聞かせてほしい。
委員	近隣市で企業が応援してロボット教室を開催したり、民間企業がプログラミングを教えている、加東市の子どもが通っていると聞いていたので、加東市にも同じような場所があればいいなと思っていた。 小学校の跡地活用、専門家(企業)の人材・物的資源の活用した長いスパンでの教育については大賛成である。

議長	<p>今回の提案の特徴は、子どもから大人まですべての世代のIT・デジタルの発信地や教育の場であるということ。</p> <p>加東市在住の兵庫県立大学教授もおり、専門分野に長けた人材も活用していきたい。</p> <p>また、加東市は農業の市でもあるので、人手不足や高齢化の問題を抱える農業の問題にも取り組むことができる。農業はこれからIOTが進んでいく分野でもある。田んぼが横にあるような学校であればロボットを使った稲刈りの実験ができるし、運動場など広い場所でドローンを飛ばす練習も可能である。</p>
委員	<p>次の加東市の人材を求めるのに場づくりの取組はとても良いと思う。</p> <p>社地域の旧5校が対象となるとすると、3年後なので活用を考え始めるにはちょうどよいタイミングだと思う。</p> <p>他の施設では、明治館が使われていないので、何か活用できれば良いと思う。</p> <p>子どもたちへのプログラムであれば、兵庫教育大学と連携すればよいと思う。教養学部があり、「情報」を子ども達に教える先生を指導する専門家がいる。</p>
委員	<p>企業ではSDGsに取り組むため地域貢献をすることが求められている。</p> <p>しかし、加東市にどのような企業があるのかわからない人が多く、加東市や市内の企業を知ってもらうためにこのような取組は必要であると思う。みんなで出来るようなことを先導して行ってほしい。</p>
議長	<p>各企業は、データはたくさん持っているが活用がなされていない。</p> <p>データを利用してビジネスや社会をよくしていくことが出来るけれど、せいぜいエクセルを活用するなどにとどまりていることが多くの企業の悩みである。スクールやビジネスとして起業し活用されるようになるのはまだまだこれからの課題である。</p>
委員	<p>釣針協会はアナログの世界なので、聞いていてすごいなと感心している。</p>
議長	<p>釣針協会のように人から人に技術を伝えることにデータを活用できたら、良いと思う。データ化して速く効率的に熟練技能を次の世代に伝えることが出来たら、若い世代も新しい視点でアイデアが出しやすいのではないかと。いくらデータと言っても基本は人だとは思いますが、ぜひ活用を考えていただきたい。</p>
委員	<p>自身の仕事に生かせるかどうかははまだ分からないが、DXなどは非常に興味のある話である。大人になってもう一度勉強しなおす機会もないため、専門家の話が聞けたら仕事に生かせるかどうか思いつくこともあると思うので、すごく良い話である。</p>
委員	<p>例えば、3Dプリンタが自社で使う前に試しで使えるのであれば活用のきっかけにつながるのでは。</p>
議長	<p>顧客の要求(出来栄のイメージ)をARで映し出すことが技術的に出来る時代になっている。でも実際は無理なので、もっと楽にできる方法をデジタルキャンパスで若い人たちが考える。そのような場になってほしい。</p>
委員	<p>お酒のラベルの表示は一般の人にはわかりにくいので、数年前にお酒が出来るまでの過程がわかるラベルを作ろうとしたが、業者も少ないし、費用面でも無理であった。でも、いずれは作りたいという思いがある。</p>
議長	<p>やりたいけどどうしたらいいのかわからないことがデジタルキャンパスで出来たらいいと思う。</p>

委員	皆さんの話を聞かせていただいて、断片的にはイメージが出来るが、全体的なイメージがまだ湧いていない。加東市でも小学生のチャレンジ教室でプログラミング体験を実施しているが、とても人気で倍率が高く、受けられない子がいる。学校で一人一台パソコンを貸与されているので、ITをターゲットにすることはよいと思うが、市としてはどれだけのニーズがあるのか、商工会と協力をして調べていきたい。小学校の跡地利用の件に関しても事前に出ている案件と調整をしていきたい。
委員	ニーズを待っていると何もできないのではないかな。これから確実に必要なことだと思うのでぜひ取り組んでほしい。
議長	行政を動かすには、事例を引っ張って来なければならない。事例のないものに対して上からのリーダーシップで動くものはいいが、下から提案していくのはきちんとしたものを書かないと通らない。
委員	未来投資という意味で子どもをターゲットにするのであれば、ニーズを優先するのではなく、チャレンジするべきではないか。小学校の授業で教えてくれることは限られている。自分でもっと学びたい子には必要な施設であると思う。
議長	とりあえずは子ども、小学校の利用ということでイメージが付きやすいのではないかな。教室もたくさんあり、様々な活用が可能。また、運動場があるため、駐車場が確保できるという利点もある。 この流れの提案でいかかが。 委員方々には宿題として他の市町や外国などでどのような事例があるのかを調べて事務局へ出していただけないか。調べていただいた事例を基に事務局でプレゼン資料をつくる。
事務局	提案依頼を後日させていただく。

(2) 令和4年度業界研究セミナーについて

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、業界セミナーについて説明を行う。>
委員	オンラインと対面のハイブリッド開催については、悪くはないと思うが神戸で対面開催しても人が集まらなかつと聞いた。リスク承知で来てもらえたらラッキーくらいで臨んでいただきたい。ぜひ、成功させてほしい。
議長	オンラインのやり方も指導してもらえるため、この機会に企業はぜひ参加してほしい。
委員	対面の場合は特に、学生と同年代の若い社員が話をする方がよい。ただ、やみくもに出てもよい訳ではなく、プレゼンをする人の上手下手で全く会社の印象が変わってしまうため、事前に研修の機会があってもよいのではないかな。 それから、加古川での開催は利用者のために場所をえらんだのか。
事務局	学生には加東市までのアクセスが足かせになることが主な理由です。
委員	学生が多いのは神戸や大阪ではないか。兵庫県も会場費が高いが大阪まで行って出展されている。加古川は中途半端ではないか。

委員	加古川は中途半端だとは思いますが、会社も時間をかけたくないし、電車は新快速が止まるという加東市の考え方も何となく分かる。
委員	3年前に合同企業説明会の開催場所について協議した。大阪や神戸で実施しても加東市の企業がほかの企業に埋もれてしまうし、学生も来る人数は少ないだろうということや、実際に加東市を見てもらいたいということで、地元で開催することになった。(コロナで実際は未実施) 今回の案は、折衷案だと思う。
委員	加東市に就職する人は実際に加東市と何らかの縁がある人だと思う。
事務局	加東市の企業には実際に加古川から通勤してこられている方がいらっしゃるし、学生も実家から大阪や神戸の大学に通っている。先程委員がおっしゃったように電車も新快速が止まるということで会場を決定しました。
委員	対面会場に来た学生は、オンライン参加の企業の説明を聞くことは可能か。
事務局	対面の会場にオンラインの会場を作って説明を聞けるよう対応することとしている。
委員	対面会場に人が集まるのかどうか不安材料である。市内の知名度のある企業にオンラインではなく対面で参加してもらおう。来てくれた学生が数社回ってくれるような仕組み作りを行うなど、参加してもらえよう知恵を絞っていただきたい。

4. その他

(1) 令和4年度加東市商工業振興施策の取組状況について

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	時間の都合により書面での報告のみとする。

5. 閉会